学校番号	3010

令和5年度　　工業建築デザイン　　科

教科	工業	科目	建築計画	単位数	3 単位	年次	3 年次
使用教科書	建築計画（実教出版）						
副教材等	学芸出版　カラー版図解　建築の歴史　西洋・日本・近代・プリント						

1担当者からのメッセージ（学習方法等）

建築デザインを行うにあたって、実際に建築するために建築計画をしっかりと理解していなければ、図面を書くことはできません。ここでは、2年次に学んだ住宅・集合住宅・事務所の計画を理解したうえで、過去の建築史や近代・現代建築・建築環境・建築設備について学習し、実習に活かしていきます。
過去の建築物、またその背景について学び、知識と技能、新しいデザインを見出す力を身に付けさせます。復習プリントや即日課題・レポート・定期考査で評価します。

履修条件
なし

2学習の到達目標

建築と環境、各種建築物の計画、都市計画、建築設備、建築の歴史的な変遷などの建築計画に関する基礎的な知識と技術を習得させ、豊かな建築空間を安全性に十分配慮して、合理的に計画し、設計できる能力と態度を育成する。また、建築史について深く掘り下げ、時代背景や技術の進歩による建築の変遷の知識を習得させることによって新たな建築物を創造できる能力と態度を育成する。

3学習評価 評価 規準 と評価方法

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	建築計画に興味・関心をもち、その目的や意義をはじめ、建築の歴史的デザインの過程や建築物のつくり出される過程とのかかわりなどを理解するため、真摯な態度で意欲的に取り組んでいる。	建築計画にかかわる問題点や課題を建築の各分野の基礎的・基本的な知識・技術を活用して思考・判断し、その解決策を的確に表現できる能力を身につけている。	建築の各分野の基礎的・基本的な知識・技術を活用して立案した建築計画を合理的かつ適切なものにするため、歴史的過程やその根拠となるデータや数値を抽出・算出できる実験・実習の方法を習得している。	建築計画にかかわる基礎的・基本的な知識・技術や実験・実習を通して、設計者としての望ましい心構えや態度を身につけるとともに、建築計画の意義や役割を理解している。
評価方法	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・DVDの鑑賞	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	日本の建築	住宅建築 ・原始の住宅 ・古代の住宅 ・中世の住宅 ・近世の住宅 宗教建築 ・神社建築 ・仏寺建築 都市 ・古代都市 ・中世都市 ・近世都市	○	○	○	○	a:我が国の原始から近世の建築における住宅建築や宗教建築、都市の移り変わりなどに関心を持ち、地域や時代ごとにつくり出された建築物の基本的な考え方や、その過程など真摯な態度で意欲的に取り組んでいる。 b:我が国の原始から近世の建築における住宅建築や宗教建築、都市の移り変わりなどに関心を持ち、地域や時代ごとにつくり出された建築物の基本的な考え方や、その解決策を思考・判断し表現できる能力を持っている。 c:我が国の原始から近世の建築における住宅建築や宗教建築、都市の移り変わりなどに関心を持ち、地域や時代ごとにつくり出された建築物の基本的な考え方や、合理的かつ適切なものとして習得している。 d:我が国の原始から近世の建築における住宅建築や宗教建築、都市の移り変わりなどに関心を持ち、地域や時代ごとにつくり出された建築物の基本的な考え方や、意義や役割などを理解している。	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等
	建築環境工学	建築と環境の概要 日照と日射 採光と照明 色彩 音響	○	○	○	○	a:室内の生活環境を良好に保つための伝熱・結露、日照・日射、採光・照明に関心をもち、熱貫流率などの計算方法や日影図の作成方法、結露防止などの理解に意欲的に取り組んでいる。 b:室内の生活環境を良好に保つための伝熱・結露、日照・日射、採光・照明をはじめ、熱貫流率などの計算方法や日影の作成方法、結露防止などについて思考・判断し、表現できる能力を身につけている。 c:室内の生活環境を良好に保つための伝熱・結露、日照・日射、採光・照明をはじめ、結露防止や熱貫流率の計算方法や日影図の作成方法などを習得している。 d:室内の生活環境を良好に保つための伝熱・結露、日照・日射、採光・照明はじめ、結露防止や熱貫流率の計算方法、日影図の作成方法などを理解している。	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等

2	西洋の建築	西洋建築とは 古代の建築 ・エジプト建築 ・ギリシア建築 ・ローマ建築 ・初期キリスト教建築 中世の建築 ・ビザンチン建築 ・ロマネスク建築 ・ゴシック建築 近世の建築 ・ルネサンス建築 ・バロック建築 ・ロココ建築 ・新古典主義建築	○	○	○	○	a:西洋の古代から近世に至るまでの代表的な地域・時代の建築物またその構造の移り変わりをはじめ、それぞれの地域や時代の特徴的な建築様式や考え方や、その過程など真摯な態度で意欲的に取り組んでいる。 b:西洋の古代から近世に至るまでの代表的な地域・時代の建築物またその構造の移り変わりをはじめ、それぞれの地域や時代の特徴的な建築様式や考え方や、その解決策を、思考・判断し表現できる能力を持っている。 c:西洋の古代から近世に至るまでの代表的な地域・時代の建築物またその構造の移り変わりをはじめ、それぞれの地域や時代の特徴的な建築様式や考え方や、合理的かつ適切なものとして習得している。 d:西洋の古代から近世に至るまでの代表的な地域・時代の建築物またその構造の移り変わりをはじめ、それぞれの地域や時代の特徴的な建築様式や考え方や、意義や役割を理解している。	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等
	建築設備	建築設備の概要 給排水・衛生設備 空気調和設備 電気設備 防災設備 搬送設備	○	○	○	○	a:建築設備の目的・内容や設備計画を行うにあたっての基本事項、給排水・衛生設備、浄化槽、ガス設備などに関心をもち、これらの計画の方法などの理解に意欲的に取り組んでいる。 b:建築設備の目的・内容や設備計画を行うにあたっての基本事項、給排水・衛生設備、浄化槽、ガス設備などをはじめ、これらの計画の方法などについて思考・判断し、表現できる能力を身につけている。 c:建築設備の目的・内容や設備計画を行うにあたっての基本事項、給排水・衛生設備、浄化槽、ガス設備などをはじめ、これらの計画の方法などを習得している。 d:建築設備の目的・内容や設備計画を行うにあたっての基本事項、給排水・衛生設備、浄化槽、ガス設備などをはじめ、これらの計画の方法などを理解している。	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等

3	近代の建築・現代の建	ヨーロッパの近代建築 ・近代建築の発生 ・近代建築運動の展開 ・近代建築運動の確立 アメリカの近代建築 日本の近代建築 ・日本人建築家の育成 ・近代建築運動の流入 ・近代建築の発展 世界の現代建築 ・戦後の復興 ・ニュータウンの誕生 ・新しい建築デザインの出現 日本の現代建築 ・戦後の模索 ・超高層建築物の出現 ・新しい建築デザインの出現	○	○	○	○	a:産業革命以降の西洋及び我が国における近代建築のつくり出されてきた過程、現代建築に与えた影響 ・戦後の西洋及び我が国における建築物の発展から、建築計画への応用や考えなど真摯な態度で意欲的に取り組んでいる。 b:産業革命以降の西洋及び我が国における近代建築のつくり出されてきた過程、現代建築に与えた影響 ・戦後の西洋及び我が国における建築物の発展から、建築計画への応用や考えなどを思考・判断し表現できる能力を持っている。 c:産業革命以降の西洋及び我が国における近代建築のつくり出されてきた過程、現代建築に与えた影響 ・戦後の西洋及び我が国における建築物の発展から、建築計画への応用や考え、合理的かつ適切なものとして習得している。 d:産業革命以降の西洋及び我が国における近代建築のつくり出されてきた過程、現代建築に与えた影響 ・戦後の西洋及び我が国における建築物の発展から、建築計画への応用や考え、意義や役割などを理解している。	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等

	温熱環境	屋外環境と室内環境 換気と通風 伝熱と結露	〇	〇	〇	〇	a:建築物を取りまく環境をはじめ、わが国の気候や建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、換気・通風に関心をもち、通風方式や室内気候の数値、必要換気回数などの計算方法などの理解に意欲的に取り組んでいる。 b:建築物を取りまく環境をはじめ、わが国の気候や建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、換気・通風のほか、通風方式や室内気候の数値、必要換気回数の計算方法などについて思考・判断し、表現できる能力を身につけている。 c:建築物を取りまく環境をはじめ、わが国の気候や建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、換気・通風のほか、通風方式や室内気候の数値、必要換気回数の計算方法などを習得している。 d:建築物を取りまく環境をはじめ、わが国の気候や建築物の内部を快適な室内気候にするための諸要素、換気・通風のほか、通風方式や室内気候の数値、必要換気回数の計算方法などを理解している。	・学習状況の観察 ・ノートやプリントの記述 ・定期考査の結果等

※　表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c:技能　　d: 知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。